

OSS-DB Gold 試験対策問題集 Ver3.0対応 正誤表

更新日：2025/9/24

問題集の一部に誤りがありました。大変申し訳ございませんが、以下内容の訂正をお願いいたします。

<第7版>

ページ	問題	内容	解説
202	模擬 試験 27	誤 B) char 型データには TOAST は使われない。	char 型などの格納サイズを指定可能なデータ型は、大規模データを格納する際に TOAST が使われます。この点に反していたため、選択肢を変更しています。
		正 B) integer 型データには TOAST は使われない。	
238	模擬 試験 27	誤 B) char 型データには TOAST は使われない。 正解です。 TOAST が使用できるのは可変長のデータ型の場合に限られています。 D) ALTER TABLE 文でテーブルに対して事前に EXTENDED を指定する必要がある。 不正解です。 TOAST は透過的に使用でき、EXTENDED はまず値を圧縮することを試みる戦略です。	上記同様、選択肢Bの記述および解説文を変更しています。 また、選択肢Dの解説文を更新しました。
		正 B) integer 型データには TOAST は使われない。 正解です。 TOAST が使用できるのは格納サイズを指定可能なデータ型に限られています。 D) ALTER TABLE 文でテーブルに対して事前に EXTENDED を指定する必要がある。 不正解です。 TOAST は特に設定することなくデフォルトで使用できます。 EXTENDED は TOAST で指定できる戦略の一つでデフォルト値です。 事前に設定する必要はありません。	

<第6版>

ページ	問題	内容	解説
226	模擬 試験 18	<p>不正解です。</p> <p>pg_stat_bgwriter ビューの値は、データベースクラスタを再起動してもリセットされません。データベースクラスタ作成時かデータベースクラスタが異常終了して統計情報が破棄された時点、もしくはpg_stat_reset()関数でリセットした時点からの累積値です。</p> <p>stats_reset 列で、統計情報のリセット最終日時を確認できます。</p>	<p>選択肢Eの解説に誤りがありました。</p>
		<p>不正解です。</p> <p>pg_stat_bgwriter ビューの値は、データベースクラスタを再起動してもリセットされません。データベースクラスタ作成時かデータベースクラスタが異常終了して統計情報が破棄された時点、もしくはpg_stat_reset_shared 関数でリセットした時点からの累積値です。</p> <p>stats_reset 列で、統計情報のリセット最終日時を確認できます。</p>	

<第5版>

ページ	問題	内容		解説
18	G1 35	誤	D) スタンバイ側で restore_command パラメータを設定する。	restore_command パラメータはオプションとなるため必ず必要なパラメータではありませんでした。そのため選択肢Dの見直しを行いました。
		正	D) スタンバイ側で primary_conninfo パラメータを設定する。	
53	G1 28	誤	シグナル列：SIGKILL ID 列：9	シグナルの一覧表の3行目に誤りがありました。
		正	シグナル列：SIGQUIT ID 列：3	
62	G1 35	誤	D) スタンバイ側で restore_command パラメータを設定する。 正しい説明のため、不正解です。 WAL アーカイブからファイルをコピーするためのコマンドが必要です。	restore_command パラメータはオプションとなるため必ず必要なパラメータではありませんでした。そのため選択肢Dの文章と解説の見直しを行いました。
		正	D) スタンバイ側で primary_conninfo パラメータを設定する。 正しい説明のため、不正解です。 スタンバイサーバーがプライマリサーバーに接続するための接続文字列を指定します。	
171	G4 14	誤	D) ログに「Too many open files」が出力された場合、max_files_per_process の設定値を大きくする対応をとる。	選択肢Dの文章に誤りがありました。
		正	D) ログに「Too many open files」が出力された場合、max_files_per_process の設定値を小さくする対応をとる。	

ページ	問題	内容	解説
186	G4 14	<p>誤</p> <p>D) ログに「Too many open files」が出力された場合、 max_files_per_process の設定値を大きくする対応をとる。 正しい説明のため、不正解です。 本エラーは、PostgreSQL が同時に開くことができるファイルの数がシステムの制限を超えたときに発生します。 max_files_per_process パラメータは、PostgreSQL の各バックエンドプロセスが開くことができるファイルの最大数を設定します。そのため、パラメータの値を大きく設定することで、エラーが解消できる可能性があります。</p>	<p>選択肢Dの文章と解説に誤りがありました。</p>
		<p>正</p> <p>D) ログに「Too many open files」が出力された場合、 max_files_per_process の設定値を小さくする対応をとる。 正しい説明のため、不正解です。 「Too many open files」というエラーは、プラットフォームが同時に開くことのできるファイル数を超えた場合に発生します。 max_files_per_process パラメータは、各バックエンドプロセスが開くことのできるファイルの最大数を設定するため、この値の削減が対策として考えられます。</p>	

<第4版>

ページ	問題	内容	解説
168	G4 6	誤 6. ストリーミングレプリケーション構成における障害対応として、適切でないものを1つ選びなさい。 B) プライマリサーバーにスタンバイサーバーが複数定義されている構成で、フェイルオーバー後にそのまま運用を続ける場合、他のスタンバイサーバーは一度破棄し再構築しないといけないケースがある。	正解の数と選択肢Bの文章に誤りがありました。
		正 6. ストリーミングレプリケーション構成における障害対応として、適切でないものを2つ選びなさい。 B) プライマリサーバーにスタンバイサーバーが複数定義されている構成で、フェイルオーバー後にそのまま運用を続ける場合、他のスタンバイサーバーは一度破棄し再構築しないといけない。	
178	G4 6	誤 正解の選択肢：D B) プライマリサーバーにスタンバイサーバーが複数定義されている構成で、フェイルオーバー後にそのまま運用を続ける場合、他のスタンバイサーバーは一度破棄し再構築しないといけないケースがある。 正しい説明のため、不正解です。 他のスタンバイサーバーは破棄する必要はなく、引き続きスタンバイサーバーとして利用し続けることも可能です。	正解の選択肢と選択肢Bの文章と解説に誤りがありました。
		正 正解の選択肢：B、D B) プライマリサーバーにスタンバイサーバーが複数定義されている構成で、フェイルオーバー後にそのまま運用を続ける場合、他のスタンバイサーバーは一度破棄し再構築しないといけない。 正解です。 他のスタンバイサーバーは破棄する必要はなく、引き続きスタンバイサーバーとして利用し続けることが可能です。	
223	模擬 試験 16	誤 E) トランザクションログの書き込みが、ファイルへのアクセス権限やディスク容量不足などが理由で失敗した。 正解です。	選択肢Eの解説に誤りがありました。
		正 E) トランザクションログの書き込みが、ファイルへのアクセス権限やディスク容量不足などが理由で失敗した。 不正解です。	

<第3版>

ページ	問題	内容		解説
196、218	G1 23	誤	A) 障害を想定したバックアップ計画の策定とバックアップの実施する。	選択肢Aの文章に誤りがありました。
		正	A) 障害を想定したバックアップ計画の策定とバックアップを実施する。	
200、227	G1 41	誤	D) トランザクション情報を扱う内部データが破損していることが分かる。	選択肢Dの文章に誤りがありました。
		正	D) トランザクション情報を扱う内部データが破損していることが分かる。	

<第2版>

ページ	問題	内容		解説
15、48	G1 23	誤	B) CHECKPOINT コマンドを実行すると、共有メモリー上の変更内容がディスクに反映されるため、実行以前の WAL ファイルは不要になる。	クラッシュリカバリでの WAL ファイルの要否を問う選択肢に訂正をお願いします。メディアリカバリにも必要なファイルとなります。
		正	B) CHECKPOINT コマンドを実行すると、共有メモリー上の変更内容がディスクに反映されるため、実行以前の WAL ファイルはクラッシュリカバリで不要になる。	
19	G1 41	誤	E) hot_standby パラメータをスタンバイ側で ON に設定する必要がある。	問題の選択肢と解説の選択肢が異なっていました。問題の選択肢の訂正をお願いします。
		正	E) hot_standby パラメータはデフォルトで on である。	
53	G1 28	誤	B) kill -15を実行すると、pg_ctl stop -m i と同等の処理が行われる。不正解です。 kill-15は、SIGTERM と同等で shutdown immediate で停止します。	kill -15の動作についての解説に誤りがありました。
		正	B) kill -15を実行すると、pg_ctl stop -m i と同等の処理が行われる。不正解です。 kill -15は pg_terminate_backend()と同様に SIGTERM を送信し、プロセスを正常終了します。	

ページ	問題	内容	解説
122	G2 25	誤 A) SQL の実行が deadlock_timeout パラメータに指定された時間を経過した場合、デッドロックとしてエラーが出力される。 不正解です。 デッドロック検出処理は、ロック待ちが deadlock_timeout パラメータに指定された時間を経過した場合に行われます。 単にロック待ちの状態の場合は、デッドロックのエラーは出力されません。	選択肢Aの解説に誤りがありました。
		正 A) SQL の実行が deadlock_timeout パラメータに指定された時間を経過した場合、デッドロックとしてエラーが出力される。 不正解です。 デッドロック検出処理はロック待ちが deadlock_timeout パラメータに指定された時間を経過した場合に行われ、 実際にデッドロックが発生している場合にエラーが出力されます。SQL 実行が deadlock_timeout パラメータに設定された時間を経過しただけではエラーは発生しません。	
197	模擬 試験 14	誤 実行時間の長い SQL の調査方法として、適切なものを3つ選びなさい。	適切なものの数に誤りがありました。
		正 実行時間の長い SQL の調査方法として、適切なものを 2 つ選びなさい。	
220	模擬 試験 14	誤 A、D、E	解答に誤りがありました。
		正 A、E	
239	模擬 試験 29	誤 A) コンフリクトが発生すると、実行中のクエリが全てキャンセルされる。 不正解です。 コンフリクトが発生するとレプリケーションは停止しますが、一定時間後に再度適用を開始します。	選択肢Aの解説に誤りがありました。
		正 A) コンフリクトが発生すると、実行中のクエリが全てキャンセルされる。 不正解です。 コンフリクトが発生するとレプリケーションは停止します。 アプリケーションから発行されるクエリはそのまま実行できます。	

<第1版>

ページ	問題	内容	解説
15	G1 23	誤 23. コマンドの説明として、適切でないものを2つ選びなさい。	適切でない選択肢の数に誤りがありました。
		正 23. コマンドの説明として、適切でないものを1つ選びなさい。	
48	G1 23	誤 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正解の選択肢 : A、E ・ 選択肢Aの解説：正解です。 インデックスを参照してテーブル内の並び替えを行うため、インデックスが作成されていない表には実行できません。 	Aも正解となっておりましたが、正しい説明のため、不正解です。
		正 <ul style="list-style-type: none"> ・ 正解の選択肢 : E ・ 選択肢Aの解説：正しい説明のため、不正解です。 インデックスを参照してテーブル内の並び替えを行うため、インデックスが作成されていない表には実行できません。 	